

INDIE'S MOVIE NEWS/2

インディーズフィルムシアター

2004/8/29/仙台シネアスト主催

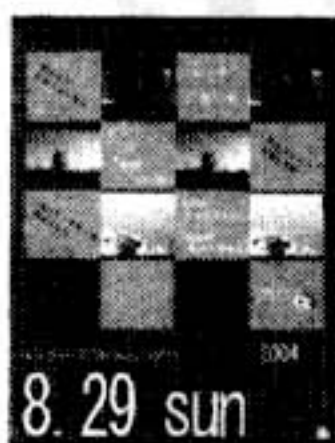
仙台シネアストの阿部真といいます。

インディーズフィルムシアター(仙台シネアスト担当)の上映会報告をそのことなんですが、8月29日の上映会にも「雷寛」の監督:上野塚介さんにご来場いただきました。そこでの解説内容はプロの役者さんとのやり取りなど、なるほどと思う内容でした。

そして、次回11月6日も「アングウ」監督:古本恭一さんが来られます。これで3回連続で監督さんに解説いただける上映会となるわけです。わざわざ来ていただけて嬉しい反面困ったことが二つ発生しています。

一つは来場者数、もう一つは予算。

来場者数は以前からの課題だったわけですが、予算についても考え直さなければならなくなっています。単純に東京から来ていただくとして、報復で新幹線で2万円ほど掛かるわけです。で、上映料金が100円では200人観客数でペイになるわけです。じゃ200人入るように努力しろよ。と言われそうですが、約2ヶ月に1日の上映会、作品は毎回違うものを、上映作品は自主制作映画、ゲストで有名監督が来るわけでもなし、この状況で200人以上の来客数は正直自身が全然ない。来てくれた監督の作品「+A」「雷寛」「アングウ」は下手な商業映画より面白いものです。少々話しがずれましたが、予算確保のために入場料金を考え直そうかと最近の上映会をふまえての思いです。

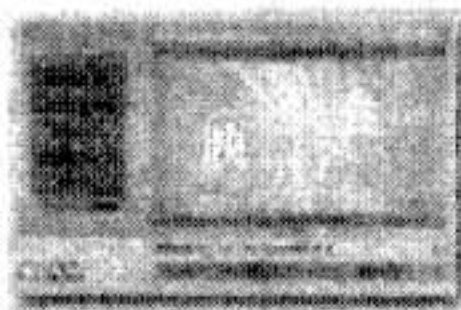


▲「雷寛」より

■以上、本年中イベントを行った団体さんのレポートでした。御協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。来年も様々なイベントが企画されている様です。面白い映画がたくさん制作されると良いですね。

仙台のインディーズ映画をネット配信中!

・仙台のCATV「キャベツ」のHPでは、現在仙台に住む色々な方の映像を配信しています。HPからCCTVをクリックして、「Street Director」をクリックすると、仙台で製作された柿澤武監督や門馬丈雄監督の作品が配信中です。もちろん無料!
・色々環境の問題とかはありますが、ネットから地元の様々な作品が見れるのはたいへんありがたいですね。これから他の監督の作品も増えたりして? 楽しみですね。



<http://www.cabbage.co.jp/index.shtml>

直接は http://c-c.tv/t_dir.html まで!

インディーズ
フィルム
シアター

インディーズフィルムシアター 年間開催スケジュール

■インディーズフィルムシアターは自主制作映画上映会を行う在仙の団体や大学の映画研究会によって構成される実行委員会とsmtが共同で企画運営する上映会です。

12/12 仙台ムービーパーティー
1/16 仙台シネアスト
2/20 リアスフィルム
3/6 東北学院大学

■12月の「ムービー〜」は、在仙大学を中心とした映像作家さん達の恒例の上映会。<http://www.smt.city.sendai.jp/ift/>
■来年2月のリアスフィルムは「仙台幻想映画会(仮)」
幻のヒーローや16ミリ人形アニメーション、webで話題のあの話や未完成のあの予告編など、「この街でこんな物が!」とちょっと吃驚の上映会。終了後には秘密のイベントも?

■「自分の作品も上映してほしい!」という方、まだ大丈夫です!

詳しくはシネアストさんに問い合わせを! → info@smt.city.sendai.jp まで!

NEW GARAGE MOVIE FOR THIS CITY →

インディーズムービー

INDIE'S MOVIE from RIASFILM

2004 合併

秋冬号

10/11/12

巻頭
特集



びあフィルムフェスティバル
(PFF) 仙台上映会終了!

「PFF in 仙台」大好評で終了!・・・ちょっとだけ問題?



▲仙台観客賞の 荒瀬 隆
「青春プレイヤー/平凡フラット」

・去る11月20日からせんだいメディアテークで開催されておりました「びあフィルムフェスティバル」が、好評の内に無事終了しました。「さようならさようなら」や「ある朝スープ」など、話題の作品が多数上映!一番人気の「青春プレイヤー〜」についてなど、いろいろ書くべきことはあるかも知れませんが、今回そちらは他の方におまかせすることにしまして。(笑)
・かなり前から開催されることは分かっていたのですが観客の入りは今一つ。編集部にも「知り合いの方にこのイベントを御紹介いただけませんか?」といった電話やメールをいただきました。80~90年代、「PFF」といえばインディーズ映像作家の登門門にして最高峰と!といった趣の究極イベントといっても過言ではないものでしたが、なぜ?

・「とにかく仙台は他の地域にくらべて大変集客数が少ない」という江村様のお話。東北の他の県の映像作家の方々ともコンタクトをとって映像制作状況についてきたが、仙台はちょっと特殊な環境にあるようだという印象の様です。

・集客数1000人を越えた「ショートピース」の菅原様を交えたお話の中で、「びあで作品が上映されてから仙台にくるまでの間に半年近くあるので、本当に興味のある人は先に東京まで観に行くし、話題性も薄れるのでは?」「宣伝がまひとつぎ届いていないので、現地に宣伝のためのスタッフをつのって盛り上げたほうが良いのでは?」「PFFだけでなく、ショートピースなど仙台の他のイベントと協力して、宣伝やゲストをクロスオーバーしたり、日程を近付けたりするのは?」といった意見が出てきました。
・地元の特殊性はともかく、集客の方法は少し問題があったような気がします。
・それだけでなく、「観客が若い人が少ない」という声も。確かに、一部の映像制作者(特に学生中心?)にびあ難れ・・・というよりも、「他の人が作った映画に興味ない」といった風潮はあるのかもしれない。
・青森・山形や若手、映像制作活動が活発になってきていて、びあの方でも「東北」としての視野で捉えた活動に注目してゆくような気配の中、これからの仙台の映像制作者達の活動の動向が気になるところです。(きしなみ)



▲ショートピースの菅原様



▲PFFの江村 様

「PFFアワード2005」作品募集!

PFFアワードは「ウォーターボーイズ」「スウィングガールズ」の矢口史靖監督、「69 sixty-nine」の李相日(リ・サンイル)監督、「黄泉がえり」の塩田明彦監督などを輩出してきたびあフィルムフェスティバルのコンペティション部門です。

ジャンル、国籍、時間などの規制は一切なく、それが映画であればどんな作品でも応募できます。応募作品は五ヶ月かけて審査され、入選すると「第27回びあフィルムフェスティバル」での上映を始め、全国各都市で開催される映画祭にて上映されます。

さらにグランプリに選ばれると、賞金100万円ほか各受賞者にも副賞が贈られます。また、PFFが長編映画制作を援助する「PFFスカラシップ」の権利を獲得すれば、劇場用映画デビューや、全世界をまたにける監督への近道になる可能性も...。昨年度は日本全国世界各国から665本もの応募がありました。新しい才能をもった監督からの作品を今年も広く募集します。

応募受付期間・・・2004年10月1日(金)~12月1日(水)(当日消印有効)

応募方法:PFF公式ホームページ(<http://www.pia.co.jp/pff/>)にアクセスし応募用紙を入手。郵送をご希望の場合は、PFF事務局までお電話いただければ応募用紙を郵送いたします。
*PFFアワード2005の応募用紙・応募要項の詳細は、9月に発売予定となっております。詳しい応募方法は、応募要項をご覧ください。

■問/PFF事務局 TEL: 02-225-1125 (月~金 10:00~18:00)

詳しくは公式HP <http://www.pia.co.jp/pff/>

自分で映画を作ってみたい! いろんな映画を観てみたい!

絶滅寸前の自主制作映画の情報「紙」

